

別添 8. 平成 23 年度
JICA 課題別研修（集団）
「アフリカ地域 稲作振興のための
中核的農学研究者の育成」への
協力依頼について

平成 23 年 1 月 28 日
JISNAS 事務局

平成 23 年度 JICA 課題別研修（集団）
「アフリカ地域 稲作振興のための中核的農学研究者の育成」への協力依頼について

1. 経緯

- (1) 名古屋大学農学国際教育協力研究センターは、JISNAS 運営委員会の了解を得た上、JISNAS の枠組みを活用した案件として、平成 23 年 JICA 課題別研修（集団）「アフリカ地域 稲作振興のための中核的農学研究者の育成」を、平成 22 年 6 月に文科省に提案。
- (2) 同案件は採択される見通しで、JICA 中部は平成 23 年 1 月 28 日付けで、同案件に関する公募を実施¹。なお、公募期間は 1 月 28 日～2 月 15 日。
- (3) 名古屋大学農学国際教育協力研究センターは、JISNAS の枠組みを活用して JISNAS 会員大学から協力可能な大学を募ることを JISNAS 事務局に依頼。
- (4) 右依頼を受け JISNAS 事務局は、運営委員長の了解の下、会員大学に対し研修実施可能な研究分野に関するアンケートを実施するとともに、研修実施に当たっての各種調整を支援することとした。

2. 案件の概要

- (1) 案件の目標：研修員が、稲作に関する様々な地域共通課題を解決するために必要な研究手法やノウハウを習得する。
- (2) 目標確認のための方法（目標の指標）：当該国の稲作を改善するための課題の把握とその解決に必要な具体的な研究結果がアクションプランに記述され、研修員所属組織によりその組織的な取り組みとして承認される。
- (3) 上位目標：研修員所属機関においてイネ研究グループが組織され、帰国研修員および日本の大学等のイネ研究者を中心とするアフリカイネ研究のための国際的なネットワークが形成される。イネ研究者の国際的ネットワークを通じたわが国の継続的・組織的研究支援を受けて、当該国において、稲作振興に関する課題解決のための研究活動が組織的に行われ、アフリカのコメ生産を 2008 年から 2018 年の 10 年間に倍増するという CARD イニシアティブ²の目標達成に貢献する。
- (4) 対象（研修員）³：
 - ① 職位：大学や農業研究機関に所属し、稲作関連分野で研究に従事する者
 - ② 職務経験：研究実務経験 5 年以上の者

¹ http://www.jica.go.jp/chotatsu/domestic/chubu/2010/koji_110127_02.pdf を参照。

² CARD イニシアティブの詳細は、<http://www.riceforafrica.org/> 又は <http://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/approach.html> を参照。

³ 研修参加者に関し、JICA が協力を実施又は計画している CARD 関係機関からの参加が得られるよう、JICA 農村開発部と協議中。

- ③ 学歴：大学卒業以上、または同等の学歴を有する者
- ④ 語学力：十分な英語能力を有する
- ⑤ 年齢：45才以下の者
- (5) 割当：タンザニア、カメルーン、モザンビーク、シエラレオネ、マリ、セネガル、ガーナ、ケニア、ウガンダ（本案件の定員は10名）
- (6) 研修受託期間：平成23年7月11日～8月9日（来日日は7月7日）

3. 本案件の実施方針案

(1) 基本方針

- ① JISNASのネットワーク力を活かし、個々の研修員・所属機関の研究ニーズと会員大学が有する知的支援リソースのマッチングを図ることにより、個々の研修員のニーズに合ったきめ細やかな研修を提供可能とする。
- ② 研修員・所属機関とJISNAS会員大学との間の研究者ネットワークを構築し、将来の国際共同研究等の形成・実施の促進を図る。

(2) アプローチ

- ① 研修内容を、全ての研修員が参加する「コア研修」及び個々の研修員のニーズに基づき研修計画を立案、実施する「個別研修」に区分の上実施する。
- ② 前者については、中核研究者として最低限必要不可欠な素養を身につけることを目的とし、本案件に協力可能なJISNAS会員大学（以下「参加大学」）からの協力を得つつ、名古屋大学農学国際教育協力研究センターにて実施する。
- ③ 後者については、当該国の稲作を改善するための課題の把握とその解決に必要な具体的な研究計画の作成と実施に必要な能力の向上及び大学関係者等との人的ネットワークの構築を目的とし、個々の研修員の研究ニーズに対応可能な参加大学にて実施する。なお、現時点で想定される研修員の研究ニーズは別添1のとおり。

(3) 研修カリキュラム案（注：詳細については、参加大学と協議の上決定する。）

単元目標	研修内容	期間	実施責任機関
① 自国における稲作の現状と課題を明らかにし、自らが取り組むべき研究課題とその手法を明確にする。	・ 事前活動によって作成したカンントリーレポートの発表を行い、討議する。 (注：参加大学はテレビ会議システムを活用し、発表会に参加することを想定)	7月11日～ 7月12日	名古屋大学
② 研究者として必要な専門知識・技術を基に実験結果の論理的な解析手法を習得する。	・ 研究者に必要な論理的思考、研究への取り組み方などを、科学的な視点も交えて講述する。また、イネに関する基礎知識、日本におけるイネ研究の歴史と現状などを講述する。 ・ 研究ニーズ（別添1）において、個々の研修員が抱える研究課題に関し、研究に必要な実験・調査	7月13日～ 7月15日 7月16日～ 8月3日	名古屋大学 参加大学

	手法、科学論文の作成に必要な知識等に関する講義、実習、農家及び現地試験視察等を行う。		
③研究組織および研究者ネットワークの形成に必要な知識を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・戦略的に研究目的を達成するための研究組織の重要性、あり方、ネットワーク形成の意義等について講述する。 ➤ CARD の枠組み及び JICA の協力量針 ➤ キャパシティ・ディベロップメント ➤ ファンドレイジング ➤ 類似の JICA 課題別研修の研修生との意見交換会 	8月5日～ 8月7日	名古屋大学 (於：JICA 筑波センター)
④研究計画を含むアクションプランが作成され、所属組織内で承認される。	<ul style="list-style-type: none"> ・研究計画を含むアクションプランを作成する。 ・アクションプランを発表し、研修員間で討議の上、必要に応じ、アクションプランを修正する。 (注：参加大学はテレビ会議システムを活用し、発表会に参加することを想定) <研修員帰国後：研修員の所属機関内におけるアクションプラン検討・実施プロセスにおいて、研修員及び所属機関からの求めに応じ、技術的な助言、支援リソースの紹介等の支援を行う。> 	8月4日～ 8月5日 8月8日～ 8月9日	参加大学 名古屋大学

4. 協力依頼

本案件に協力可能な JISNAS 会員大学は、別添 2 の回答用紙を記入の上、平成 23 年 2 月 13 日までに JISNAS 事務局 (jisnas@agr.nagoya-u.ac.jp) 宛に送付願います。

5. 今後のスケジュール

- (1) ～2月15日：名古屋大学は JICA に対し、本案件への参加意思確認書を提出。
- (2) ～3月中旬：JISNAS 事務局は、参加大学と調整し、具体的な研修カリキュラム案等を作成の上、先方政府に対する募集要項 (GI) 等の内容について JICA と協議。
- (3) ～6月中旬：先方政府より A2A3 フォーム (研修員候補者の職歴等が記載) 及び別途提出を求める予定のカントリーレポート (研修員候補者、所属機関、国の研究ニーズ等が記載) が接到した後 (5月中旬頃の見込み)、研究ニーズと知的支援リソースとのマッチングの観点から「個別研修」の受入先について参加大学間で協議の上、決定。
- (4) ～7月上旬：名古屋大学は本案件の実施に関し JICA と契約。なお、研修実施経費の内訳については、JICA と名古屋大学との委託契約の内容を踏まえ調整。

以上

- ・別添1：National Rice Development Strategy (NRDS)から抽出した研究分野および研究ニーズ、National Rice Development Strategy (NRDS)から抽出した研究分野と対象国のクロス表
- ・別添2：JICA 課題別研修（集団）「アフリカ地域 稲作振興のための中核的農学研究者の育成」研修実施可能な研究分野に関するアンケート【回答用紙】

National Rice Development Strategy (NRDS)から抽出した研究分野および研究ニーズ			
No.	国	研究分野	研究ニーズ (キーワード)
1	カメルーン	非生物的ストレス、病害、遺伝資源	Cold tolerance, Iron toxicity, Yellow mosaic virus, Foliar diseases, Drought tolerance, Genetic resource conservation
2	ガーナ	土壌管理、農業生態系、病害、虫害、灌漑/水管理	Soil fertility, Land suitability, Nematodes, Soil-borne diseases, Soil and water management
3	ギニア	雑草、病害、育種、農業機械/農具、土壌管理、農業経済/社会	Weed control, Disease/Pest control, Breeding, Agricultural and processing equipment, Soil fertility, Soil degradation, Problem of refugees, Land declaration, Rural-urban migration
4	ケニア	農業機械/農具、品種現地適応性、育種、土壌管理、作物生理、栽培技術/作付体系、ポストハーベスト	Agricultural equipments, Variety evaluation, Breeding, Soil health/fertility, Soil water relationship, Crop rotations, Plant water requirement, Post harvest management
5	マダガスカル	農業経済/社会、栽培技術/作付体系、非生物ストレス、環境・資源管理、土壌管理、灌漑/水管理、農業機械/農具	Land ownership, Credit accessibility, Value addition, Promotion of agribusiness, Seed quality, Productivity improvement, Cyclone damage, Drought, Environmental degradation, Soil fertility, Degradation of irrigation system, Water control, Agricultural equipment
6	マリ	病害、虫害、雑草、育種、栽培技術/作付体系、農業経済/社会	Rice blast, Cecidomyiid, Yellow mosaic virus, Stem borers, Locusts, Problem of floating plants in the irrigation system (water hyacinth and Salvinia molesta), Breeding, Cultivation techniques, Cropping systems, Value chain
7	モザンビーク	遺伝資源、品種現地適応性、土壌管理、農業機械/農具、非生物的ストレス、灌漑/水管理、農業経済/社会、栽培技術/作付体系、副産物利用	Genetic resource conservation, Varieties adaptability, Soil fertility, Agricultural mechanization, Salinity, Water Management, Drought, Flood, Marketing, Credit accessibility, Productivity improvement, Byproduct management
8	ナイジェリア	育種、遺伝資源、環境・資源管理、栽培技術/作付体系、灌漑/水管理、土壌管理、病害、ポストハーベスト、農業機械/農具、農業普及	Breeding, Genetic resource conservation, IRM (Integrated Resource Management), Cultivation techniques, Water management, Soil fertility, IPM (Integrated Pest Management), Productivity improvement, Postharvest management, Agricultural mechanization, Agricultural extension
9	セネガル	農地保全/農地開拓、農業機械/農具、農業経済/社会、非生物的ストレス、土壌管理、栽培技術/作付体系、品種現地適応性、環境・資源管理、副産物利用、病害	Land rehabilitation, Land reclamation, Agricultural mechanization, Marketing, Salinity tolerance, Silting up of lowland, Fertilizer use, Fertilizer response, Natural resource management, credit accessibility, Byproduct management, pest management
10	シエラレオネ	品種現地適応性、農業機械/農具、栽培技術/作付体系、環境・資源管理、病害	Variety evaluation, Productivity improvement, Agricultural and processing equipment, Cultivation techniques, Integrated Natural Resource Management, Pest control
11	タンザニア	遺伝資源、品種現地適応性、育種、栽培技術/作付体系、非生物的ストレス、土壌管理、灌漑/水管理、病害、虫害、鳥害、農業普及	Genetic resource conservation, Variety evaluation, Breeding, Productivity improvement, Lodging resistance, Early maturity, Biotic stress resistance, Abiotic stress resistance, Soil health/fertility, Fertilizer use, Soil erosion, Soil nutrition, Soil and water management, RYMV, Rice blast, Stem borers, African rice gall midge, Rodents, Bird damage, Integrated Pest Management, Agricultural extension
12	ウガンダ	品種現地適応性、遺伝資源、土壌管理、環境・資源管理、栽培技術/作付体系、ポストハーベスト、農業機械/農具、農業普及	Variety evaluation, Genetic resource conservation, Soil fertility, Natural resource management, Agricultural and processing techniques, Agricultural and processing mechanization, Postharvest management, Agricultural extension

研究分野	カメルーン	ガーナ	ギニア	ケニア	マダガスカル	マリ	モザンビーク	ナイジェリ	セネガル	シエラレオネ	タンザニア	ウガンダ	数
土壌管理		○	○	○	○		○	○	○		○	○	9
栽培技術/作付体系				○	○	○	○	○	○	○		○	8
農業機械/農具			○	○	○		○	○	○	○		○	8
病害	○	○	○			○		○	○	○	○		8
環境・資源管理					○			○	○	○	○	○	6
品種現地適応性				○			○		○	○	○	○	6
遺伝資源	○						○	○			○	○	5
育種			○	○		○		○			○		5
農業経済/社会			○		○	○	○		○				5
非生物的ストレス	○				○		○		○		○		5
灌漑/水管理		○			○		○	○			○		5
ポストハーベスト				○				○				○	3
虫害		○				○					○		3
農業普及								○			○	○	3
雑草			○			○							2
副産物利用							○		○				2
作物生理				○									1
鳥害											○		1
農業生態系		○											1
農地保全/農地開拓									○				1

別添 2

平成 23 年 1 月 27 日

JISNAS 事務局

JICA 課題別研修（集団）「アフリカ地域 稲作振興のための中核的農学研究者の育成」
 研修実施可能な研究分野に関するアンケート【回答用紙】

標記研修案件は、対象国（ウガンダ、ガーナ、カメルーン、ギニア、ケニア、シエラレオネ、セネガル、タンザニア、ナイジェリア、マダガスカル、マリ、モザンビーク）の中核的研究者に、それぞれの専門分野に応じた研究手法やノウハウを研修し、当該国の稲作を改善するための課題解決に向けた研究計画の作成を指導するとともに、日本の大学と研修員所属機関との国際共同研究の形成・実施を促進するための研究者ネットワークの構築を目指します。

つきましては、本案件に協力可能な大学におかれましては、以下様式を活用の上、研修実施可能な研究分野を、平成 23 年 2 月 13 日までに、JISNAS 事務局 (jisnas@agr.nagoya-u.ac.jp) 宛に回答いただきますようお願い申し上げます。ご不明な点等については、JISNAS事務局までご連絡下さい。

回答者氏名	
所属	

対象研究分野 ^{注1)}	実施可否 ^{注2)}	備考・自由記入
土壌管理		
栽培技術/作付体系		(記載事例) イネの栄養診断については対応可能
農業機械/農具		
病害		
環境・資源管理		
品種現地適応性		
遺伝資源		
育種		
農業経済/社会		
非生物的ストレス		
灌漑/水管理		
ポストハーベスト		
虫害		
農業普及		

雑草		
副産物利用		
作物生理		
鳥害		
農業生態系		
農地保全/農地開拓		

注1：対象研究分野は、研修対象国が作成した National Rice Development Strategy (NRDS)から抽出し、ニーズの高い順に

上から整理。

注2：複数選択することも可能。